
岐阜歯科学会創立30周年記念学会誌特集号によせて

岐阜歯科学会 会長 岩久文彦

昭和46年4月岐阜歯科大学が岐阜穂積のこの地に創立されたのに呼応して岐阜歯科学会が誕生し早や30年を迎えました。この間、経営学部、法学部が増設され、大学名も岐阜歯科大学から総合大学の朝日大学へと変わりましたが、岐阜歯科大学を母体として誕生した岐阜歯科学会は朝日大学歯学部を支える学術団体として、学術、研究並びに教育の場において地道に幅広い活動を続け、基礎・臨床を問わず、また、地域の歯科医療の臨床、行政分野においても学術、技術の発展と交流の場として活動して参りました。そして、その間に日本学術会議認可登録学会、全日本歯科学系連絡協議会会員学会の資格を得、加えて岐阜県歯科医師会にも会員参加をいただき地域歯科臨床の場でその発展に努力して参りました。そして、迎えた30周年で、これを記念してこうした現状を踏まえた特集号を編集し発刊することになりました。過去30年間には歯科医学並びに歯科医療の進歩はその学術知識、医療技術の上で著しい進歩と発展がみられ、加えて、それに基づいた臨床分野でもその先端技術は基礎科学、基礎歯科学分野の発展に負うところ極めて大きいものがあります。

この特集号に載せられた論文は学会員からの投稿によるものですが、学会員が日夜研鑽してその努力の成果がここに表現されています。論文には学問分野から研究内容に日進月歩の進展が読み取れ、また独創的なひらめきに基づいたものから長期に亘る経験と日常の積み重ねの上に立つ成果や新しい研究技術、器械の開発によるものなど種々のものがあります。

この特集号は歯科学会会員全てに配布されることと思いますが、ここに掲載されている論文から基礎歯学から臨床歯学に亘る最近の歯学関係の全体の一部でも把握して下されば幸いです。また、本学卒業後臨床に従事されている先生方、現に研究を行っている先生方に新たな活動の触媒剤となることを希望します。そして、加えて岐阜歯科学会が今後も活動の場を広め、研究と教育、地域歯科医療の発展と後進の指導にその教育の場となるよう歯科界の全般に貢献されることを望みます。
